

第2回 部会検討結果報告書（行財政運営部会）

グループ①

記録者	山本 宏太 上野 紘美	場所	市役所北庁舎 3階第1～3会議室	
開催日時	令和2年9月5日（土）午前10時00分～12時00分			
出席者	小澤 康史	鹿野 恭佑	小西 信生	山本 宏太
(5名)	上野 紘美			

基本施策名	5-1 市民の参画意欲を高める市政運営
内容	別紙：見直し論点シートのとおり
その他	<p>・ 総合計画に記載のある施策指標に関して、適切なのだろうか。例えば、施策76「広報活動・情報公開の充実」には、市政情報を容易に入手できないと感じる市民の割合が指標になっているが、それが基本施策の参画意欲を高めることにつながっているのか疑問がある。</p> <p>・ 各施設ごとの登録になっており、施設によって基準も違うため、市民団体の数が把握できていない。</p> <p>・ 市のホームページで情報を探しづらい。何度もクリックしていかないと辿り着かない情報など、改善が必要。</p>

グループ②

記録者	大石 直美	場所	市役所北庁舎 3階第1～3会議室		
開催日時	令和2年9月5日（土） 午前10時00分～12時00分				
出席者	西郷 昌高	瀬戸 慎也	隆 宗男	二階堂 麻美	
(5名)	大石 直美				

基本施策名	5-1 市民の参画意欲を高める市政運営				
内容	別紙：見直し論点シートのとおり				
その他	<ul style="list-style-type: none">・防災への意識について、市民にある公助へ頼ればよいという意識を変えていってほしい。・市民からの意見や、以前の状況等意見交換がしやすい仕組み作りがあるとよい。				

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課	ver 情報
5-1	市民の参画意欲を高める市政運営	政策総務部	広報課		グループ①

ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
目標達成に向けて順調	3.0	広報活動・情報公開の充実	3：目標達成に向けて順調		
		広聴活動の充実	3：目標達成に向けて順調		

イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙の閲覧手段の充実 → コンビニでの配布店舗を拡大（平成29年度にセブンイレブンを追加、平成28年4月1日号28店舗→令和2年6月11日号71店舗）したほか、平成30年4月から全国の自治体の広報紙が無料で閲覧できるマチイロアプリにおいて、広報ふちゅうの閲覧が可能になっている。 ・ 各種情報媒体の活用 → 市の公式 twitter の運用を開始し、情報発信を行った。 ・ 市政情報センターの安定的運営 → 平成29年7月に府中駅構内から、ル・シーニュ5階に移転し、新たなサービスとして、土曜日の法律相談及び、図書館の図書取次業務を開始した。 ・ 府中市情報公開条例に基づく公文書の開示請求への対応 → 平成30年4月から文書管理システムが導入され市で作成する文書が電子化されたことに伴い、平成30年4月1日～令和元年11月末までに起案・収受した文書25万件の目録をホームページで公開した。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市長と語る会を通じた対話機会の拡充 → 東京農工大学、東京外国語大学の学生や、オリンピックに通訳ボランティアとして派遣された大学生、都立農業高校の学生など、若者からの意見を聴取し、市政への反映に努めた。 ・ 市民ニーズを捉える市政世論調査の実施 → 選挙権が18歳以上になったことを契機に、平成30年度から調査対象を18歳以上とした。
残された課題	<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の主な配布手段は新聞折込みであるが、新聞を購読している世帯が全体の4割程度となっている。一方でスマートフォンの所有者数は全世代で6割、50歳代以下の世代では約8割以上であることから、ホームページやアプリ、twitter、メール配信などのさまざまな情報媒体から市政情報が入手できることを市民に周知する必要がある。 ・ お知らせ記事の分量を減らし、誰もが読みたいと思う魅力ある記事を掲載する。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の皆様からいただいた貴重なご意見やご要望を施策に反映させていくため、広聴活動の充実を図っているが、いただくご意見やご要望が、施策提言的なものより個別具体的な対応要求が増えている。

ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な情報と情報の入手手段は世代や国籍によって異なっており、一律に情報発信することが難しくなっている。届けたい内容によって情報発信手段を選別する必要がある。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市政世論調査での要望が施策に反映されているかどうか、確認できるしくみが必要である。

エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も新聞購読世帯は減少することから、情報発信手段を市民が選別できる環境を整える必要がある。 ・ 市政課題を掘り下げた、魅力ある広報記事づくり ・ 自治会加入率を上げることが情報を届けることにつながるのではないかと。また、コロナ禍において回覧に代わる媒体を考える必要がある。 ・ 聞かないと情報が出てこないのか、どのような情報があるのか横断的に示す仕組みづくりができないか。市民が手続きに来る機会を逃さず、一方で大量の資料は読まないという状況があるので、効果的に情報を提供する必要がある。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市政課題解決の取組につながる、市民ニーズや意見の整理 ・ 市民の意向に沿った対応ができるよう、聴取した意見・要望を的確に処理する仕組みづくり ・ 広聴でも、広報活動・情報公開と同様に、行政が市民の意見を聞く場をいっどこに設けているかという情報を入手することがひとつの課題である。市民が参加できる会議情報など、携帯の位置情報を利用した周知を行い、自動的に情報が届くという形が検討できないか。 ・ 議会で行っているオンライン中継を他の各種委員会でも拡げることができないか。
--

オ. 協働の実践に向けて

<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市政情報に関心の薄い層と連携した広報紙づくり ・ コンビニでの広報紙の配布を継続するほか、市内を拠点に活動するスポーツトップチームとともに、市の注目情報をSNSで発信するなど、行政による発信だけではなく情報発信のあり方を検討する。 ・ 民間と協力して、新しい媒体を増やして情報伝達の方法を多様化する。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災連絡会など、地域の課題解決のために設置された団体と意見交換する機会を設ける。 ・ 市長と語る会を通じ、市民と市民の対話の場・機会を拡充 ・ 市民の意見等を聴くための効果的な手法を検討する。
--

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
5-1	市民の参画意欲を高める市政運営	政策総務部	広報課	

ver 情報

カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

「めざすまちの姿」	<ul style="list-style-type: none">・市は、多様な市民層に適した分かりやすく、見やすく、より関心が持てる方法で情報を提供しています。・全ての市民が市の情報を利用することができます。・市民は、定期的に行われる市長との懇談会等に積極的に参加し、市と身近な対話ができています。また、市も積極的に市民の意見を政策に取り入れています。・市民がまちづくりに参画できる仕組みや環境が整い、多くの市民が市政に参画し、市民と市との協働による市民主体のまちづくりが進められています。
見直しの理由	<ul style="list-style-type: none">・・

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課	ver 情報
5-1	市民の参画意欲を高める市政運営	政策総務部	広報課		グループ②

ア. 第6次総合計画後期基本計画の進捗状況

基本施策全体の進捗状況	平均値	施策名	進捗状況	施策名	進捗状況
目標達成に向けて順調	3.0	広報活動・情報公開の充実	3：目標達成に向けて順調		
		広聴活動の充実	3：目標達成に向けて順調		

イ. これまでに（第6次総合計画期間に）得られた成果・残された課題

主な取組と成果	<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙の閲覧手段の充実 → コンビニでの配布店舗を拡大（平成29年度にセブンイレブンを追加、平成28年4月1日号28店舗→令和2年6月11日号71店舗）したほか、平成30年4月から全国の自治体の広報紙が無料で閲覧できるマチイロアプリにおいて、広報ふちゅうの閲覧が可能になっている。 ・ 各種情報媒体の活用 → 市の公式 twitter の運用を開始し、情報発信を行った。 ・ 市政情報センターの安定的運営 → 平成29年7月に府中駅構内から、ル・シーニュ5階に移転し、新たなサービスとして、土曜日の法律相談及び、図書館の図書取次業務を開始した。 ・ 府中市情報公開条例に基づく公文書の開示請求への対応 → 平成30年4月から文書管理システムが導入され市で作成する文書が電子化されたことに伴い、平成30年4月1日～令和元年11月末までに起案・收受した文書25万件の目録をホームページで公開した。 ・ 広報紙の配布状況の数値を掲載する。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市長と語る会を通じた対話機会の拡充 → 東京農工大学、東京外国語大学の学生や、オリンピックに通訳ボランティアとして派遣された大学生、都立農業高校の学生など、若者からの意見を聴取し、市政への反映に努めた。 ・ 市民ニーズを捉える市政世論調査の実施 → 選挙権が18歳以上になったことを契機に、平成30年度から調査対象を18歳以上とした。
残された課題	<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の主な配布手段は新聞折込みであるが、新聞を購読している世帯が全体の4割程度となっている。一方でスマートフォンの所有者数は全世代で6割、50歳代以下の世代では約8割以上であることから、ホームページやアプリ、twitter、メール配信などのさまざまな情報媒体から市政情報が入手できることを市民に周知する必要がある。 ・ お知らせ記事の分量を減らし、誰もが読みたいと思う魅力ある記事を掲載する。 ・ 情報発信手段が多様化する中、情報の受け手側に、受信方法を教示する機会が少なく、高齢者などの情報弱者が、情報にアクセスしにくい状況になっている。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の皆様からいただいた貴重なご意見やご要望を施策に反映させていくため、広聴活動の充実を図っているが、いただくご意見やご要望が、施策提言的なものより個別具体的な対応要求が増えている。

ウ. 今後、予想される新たなニーズ・課題

【広報活動・情報公開の充実】

エ. 次期総合計画策定に向けた見直しの論点

<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も新聞購読世帯は減少することから、情報発信手段を市民が選別できる環境を整える必要がある。 ・ 市政課題を掘り下げた、魅力ある広報記事づくり ・ 新聞を取っていないくても、広報紙だけ配付してもらえることを広く周知する。（知らない方も多くいると感じたため。） ・ 情報の受け手側の環境整備を進める。 ・ 情報の受信方法レクチャー会を実施するなど、情報弱者への配慮を徹底する。 ・ 情報発信を市民が選択できる環境を整える内容を具体的に検討する。情報過多のため、ほしい情報がすぐ手に入るような仕組み作りをする。 → 総合計画の色分けを元に（総合計画と紐づけているように）、記事がどのようなジャンルに分類されるか、一目でわかるようにする。 → 情報を詰め込むのではなく、見出しとQRコードにして、詳細はHPなどに飛んでもらう。 → 広報記事の本文を全てQRコードにした場合には、①ほしい情報にすぐたどり着けるよう、キーワード検索ですぐヒットするように工夫する。②記事本文をQRコードにすることで広報記事へのアクセス数増加が見込まれる。そのため、記事へのアクセス数をカウントできる体制を整える。③アクセス数が増加していることが数値で明確になれば、広告の掲載希望が増え、広告収入の増加につながる。 ・ スマートフォンの位置情報を基に、市の情報が届く仕組みをつくる。 ・ 自治会の加入率が低下しているため、自治会回覧に代わる情報伝達の仕組みを構築する。 <p>【広聴活動の充実】</p>

オ. 協働の実践に向けて

<p>【広報活動・情報公開の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市政情報に関心の薄い層と連携した広報紙づくり → 世代や、時勢に応じた特集を組む。 コンビニでの広報紙の配布を継続するほか、市内を拠点に活動するスポーツトップチームとともに、市の注目情報をSNSで発信するなど、行政による発信だけではない情報発信のあり方を検討する。 ・ 数多くある市民活動団体ともっと連携を取っていく。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災連絡会など、地域の課題解決のために設置された団体と意見交換する機会を設ける。 ・ 市長と語る会を通じ、市民と市民の対話の場・機会を拡充 ・ 市民の意見等を聴くための効果的な手法を検討する。
--

付随して

見直し論点シート

番号	基本施策名	主担当部	主担当課	関係課
5-1	市民の参画意欲を高める市政運営	政策総務部	広報課	

ver 情報

<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報と情報の入手手段は世代や国籍によって異なっており、一律に情報発信することが難しくなっている。届けたい内容によって情報発信手段を選別する必要がある。 <p>【広聴活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政世論調査での要望が施策に反映されているかどうか、確認できるしくみが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 市政課題解決の取組につながる、市民ニーズや意見の整理 市民の意向に沿った対応ができるよう、聴取した意見・要望を的確に処理する仕組みづくり 市長との懇談会を対面だけでなく、オンラインでの開催や公開、メディア（J：c o mやふちゅうFM）を利用した放送等、市民が参加できる手段の選択肢を広げる。
---	--

カ. 第6次総合計画（基本構想）における「めざすまちの姿」の見直し

「めざすまちの姿」	<ul style="list-style-type: none"> 市は、多様な市民層に適した分かりやすく、見やすく、より関心が持てる方法で情報を提供しています。 全ての市民が市の情報を利用することができます。 市民は、定期的開催される市長との懇談会等に積極的に参加し、市と身近な対話ができています。参加方法には、様々な選択肢が用意されています。また、市も積極的に市民の意見を政策に取り入れています。 市民がまちづくりに参画できる仕組みや環境が整い、多くの市民が市政に参画し、市民と市との協働による市民主体のまちづくりが進められています。
見直しの理由	<ul style="list-style-type: none"> 市長との懇談会の実施手法について、対面だけでなく、オンラインでの参加や公開、メディアを利用した放送等、市民が参加できる手段の選択肢を広げるべきとの市民意見が挙がったため、その市民意見を踏まえた「めざすまちの姿」表現に変更。